

会社解散と情報消去

市川 浩

定年退職直前、日本語製版ソフトの電子化開発に携はりて、初めて印刷業に接す。既に歐米語關係にては、電子化大いに進みをり、これに追ひ附かむと、右縦書き、ルビ、訓點、送り假名など日本語製版の特殊性を活かすべく工夫する、明治の活字印刷機導入時にも匹敵すべし。一方印刷の前段たる、文字組版に於ける「ワープロ」の發達は、人を「手習」より解放し、萬人に意見表明の自由を保障す。然れどかく廣汎の分野に活用の範圍及べば、各専門分野の語彙への對應苦慮せざるを得ざりき。其の一つに正漢字、歴史的假名遣（以下正統表記）の問題あり。「ワープロ」にその機能無しとは言ひ條、一字毎に文字を打ち換ふれば、最終的には古典文の制作も可能なるも、その煩瑣尋常に非ず。何とか解決せむと苦闘の末、正統表記にての入力、變換により直接目的の文章を得しむる言語系「契沖」を完成、退職後、之の事業化を譲り受け、有限會社申中閣として發足す。時に平成五年なり。

然る程に電子技術の發達急にして、63 bit演算系主流となる。創業當初の8〜16 bitより僅か二十五年の経緯なり。同時に32 bitまでは、慣習として、それ以前の演算系に於て作動せる應用系の作動は保障せられずとなりにけり。特に我が國の場合、日本語を主體とする演算系は遂に育たず、歐米語主體の外國製演算系に頼らざるを得ざれば、日本語特有の應用系は64 bitにて作動可能とする改造必須なり。

我が「契沖」もその例に漏れず、64 bitウインドウズ10に至りて、使用可能範圍大幅に減少す。64 bit對應への改作、改造は容易ならず、残念乍ら撤退を餘儀なしとす。二月の大腿骨折も結論を早む。九月三十日臨時株主總會を開き解散を決議す。

會社解散となりて先づ問題となるは、電子化せる各種情報の廢棄なり。電腦上の情報は削除するも、固定記憶装置内にはその儘残り、通常の操作環境にては手の届かぬものとなる。一方これも技術進歩大にして、専用の應用系によりその讀出しは極めて簡單なりと云々。即ち情報を作成或いは入手して電腦に一旦登録するや、之を消去するには固定記憶装置を物理的に破壊するの他なし。然れどもこの破壊一般人には危険を伴ふ故、各製造元が引取りて行ふ仕組にてあり、電腦購入時には、その廢卻をも考慮の要あり。正規の手順を踏まず廢卻して、萬一固定記憶装置が惡意ある向に渡りつれば、取返しつかざるべし。

これ當に人間の腦に似たり。日常忘却して、思ひ出し得ざる過去の記憶は、電腦に於ける削除電簿に相當すべし。然れど腦内記憶分野にては消ゆる無く、何かの事象に關聯して突如再生あるべきこと、既に泉鏡花の小説「外科醫」、手術中の「妄言」を恐れ、麻酔を拒否する患者の例を引くまでもなし。この意味に於て、死者を茶毘に付するは固定記憶装置の物理的破壊に同じなり。

會社解散は敗北の一なるは明かにして、敗軍の將兵を語らずといふ。敢てこの四半世紀を振返るに、電子應用系の面にては佛管理工學研究所の、或いは國語學の面にては國語問題協議會等の諸先生の溫き御指導、御支援を賜り、又本會にては奇しくも同年代の學兄諸賢志を同じうして御教示、御協力下さり、順調に營業するを得たり。應用系内の改善には文語文法の應用不可缺とて、古語辭典を引暮らす内、何時しか文語文の讀解にも應用力を感じるに至れり。かくて門外漢乍ら國語問題の改善に些か協力し得たるは大いなる喜びにして、特に二十世紀を支配せる地球一極主義下に、反りて國語獨自の特徴、中にも書き言葉の成長と獨立を實感するを得たり。時恰も世は多様性尊重に移りつゝあり、言語の多様性を代表する日本語の發展に引續き微力を盡さむとす。

（平成三十年十月十五日受附）